

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会が総会、二イチクが新たに加入

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会（阿部昌史代表理事＝㈱ミート・コンパニオン代表取締役）は24日、第10回定期総会をミート・コンパニオン會議室で開催。令和3年度事業報告や4年度事業計画（案）などを審議し、上程全議案が承認された。新規会員として、㈱ニイチク（山田彰男社長）が入会。また、任期満了に伴う役員選任では阿部代表理事以下、原田知昌、齋藤義一両副代表理事、音田俊彦、森島了、宮健一、小堀正展、河上貴一、本田一郎、宮下義史の7理事、植井敏夫会計監査役が再任されたほか、新たな理事に小原和也、山田彰男両氏が選任された。

4年度も輸出増加や新規・有望市場への参入を推し進めるべく、食肉処理施設の整備や設備導入の充実を図る。また、オールジャパンでの輸出拡大を目的とした販売促進活動として、専門家・海外バイヤーらを派遣・招へいする。さらに海外における展示会、商談会への専門家らの派遣などを行う。

阿部代表理事はあいさつで、「依然として続くコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、円安の進行で「外食、業務用向けの食品をあつかうわれわれに多大な影響を与えていた」と説明。その上で「協議会の会員と力を合わせ、海外への輸出の取り組みを強固にしていきたい。円安は、こと和牛輸出という点においては一筋の光がみえる。国内では円安の影響により、牛の飼料代が急騰しており、飼料代を販売価格に転嫁することは簡単ではない。したがって国内では多くの牛肉製造業者が利益を出せずにいるが、円安の苦境の中で、海外で和牛を好む富裕層により輸出は大変好調だ。昨年度の和牛輸出は537t／年、787.9億円もの輸出実績となり、今年度の6月までの状況で、昨年度とほぼ同水準で輸出が進んでいる。和牛の輸入大国として、香港や台湾、タイなどの東・東南アジアを中心にカンボジアや米国の輸入も増え続けていく。また、中国への輸出解禁が早期に望まれるが、両国間の協議でクリアすべきハードルが高く、中国市場への輸出はまだ先になるもようだ。いずれにしても、世界の先行きが非常に不透明な現代において、会員の皆さまとの困難な状況を打破していきたい」とした。